

令和4年6月1日

新任米国駐日大使ラーム・エマニュエル氏への歓迎挨拶

昨年、日米協会の名誉会長に就任しました安倍晋三でございます。本日は、エマニュエル大使を日米協会にお迎えできることを、たいへん嬉しく思っております。

エマニュエル大使は四二代の駐日米国大使でございますが、シカゴ出身者であります。百年前に、シカゴ出身者の方がおられたんですが、たった一年間の駐在で帰られたそうでございますので、実質的には、シカゴ出身大使としては、初めての大使となるわけであります。

アメリカにとっては、シカゴというのは最も愛すべき街の一つであるというのは、申し上げておきたいところです。

改めて、大使の日本への赴任を、心から歓迎したいと思っております。みなさん、大きな拍手でお迎えください（拍手）。

先般、バイデン大統領が訪日をされまして、エマニュエル大使のご尽力もあり、大成功に終わったと、わたしは思っております。大きな成果があったのではないかと思います。

そしてその際に、日米豪印の「クアッド」も開催をされました。クアッドについては、この四カ国の連携について、今から十六年前、第一次安倍政権の時に、わたしが提唱したのもであります。「知的財産権」を主張するつもりはございませんが（笑）、その際、日米豪印の協力こそが地域の平和と安定につながる、そしてインド太平洋地域における普遍的価値の定着と広がりにもつながっていくということを申し上げたわけでございますが、ただ当時はまだ時期尚早でございまして、紆余曲折があった末に、局長級の会合に終わったのでございますが、その後第二次安倍政権が発足をいたしまして、わたしは執念深い男でございまして、なんとか実現したい、首脳級を実現したいと考え、政権の末期に外相級の会議をおこなうことができ、そして今般、日本でクアッドの会議が開かれたことは大変感慨深いものがあるわけですが、大変時宜を得た会議となったと思います。

まさに日米豪印、自由と民主主義と基本的価値と、そして法の支配を重んじる国々の、四カ国のリーダーが集ったことによって、この価値の輝きを世界に示すことができたのではないかと、このように思います。

エマニュエル大使は、これからの三年間、日米がどれほど協力できるかが、今後三十年の両国の立ち位置を決める。そして民主主義の力を決する、と、このように仰いました。このエマニュエル大使の発言に賛成かどうかと、こう問われれば、わたしは三つの答を用意しております。イエス、イエス、イエスであります（笑、拍手）。

マンフィールド大使はかつて、日米の間柄は、世界で最も重要な二国間関係だ、「bar none」「まったく例外なし」と仰っていますが、この言葉は、当時よりも現在のほうが、まさに真

価を発揮しているのではないか。このように思うわけでありませう。

現在も、残念ながらロシアのウクライナへの侵略は続いている。その中で、ウクライナの人々は自国を守るために命を賭けて戦い抜いています。この姿から、わたしたち日本人は何を学び取ることができるか。アジアに引き寄せて、そして日本に引き寄せて、考えなければならないと思います。まずはやはり私たち自身が自国を守っていくうえに、また地域の安定と平和のために、さらに努力を積み重ねていくということでありませう。

同時に、日本には、幸い、米国というすばらしい同盟国が存在します。日米同盟を、より強化をしていく、日米同盟の強靱化を図っていくことは、日本の、そしてインド太平洋地域の平和と安定につながっていくのではないかと。このように思います。

その意味におきまして、先ほど申し上げました、自由、民主主義、人権、法の支配というこの価値観を、身をもってこの重要性を理解をしておられる、そしてこの価値をしっかりとしたものとして世界に定着させていくうえにおいて大きな努力をしてこられたエマニュエル大使の、大使としての日本への赴任を、本当にわれわれも歓迎をしたいと思ひます。

そして同時にエマニュエル大使とともに、われわれは日米同盟が世界のさまざまな課題に共に取り組んでいく、そういう同盟にしていきたいと思ひます。そうすることによって、まさに日米同盟は世界の人々にとって、わたしは「希望の同盟」となっていくだろうと、こう期待をしているところでござひます。

そして、最後に、エマニュエル大使から四二代前、初代の大使、当時は公使でありましたが、タウンゼンド・ハリス公使の、これ、日記なんです、これをのちほど、プレゼントをさせていただきます、と思ひます。

当時の日本は、ハリス公使を信頼し、そのことによって、ヨーロッパよりも先に、開国の条約を米国と結ぶことになる、と、そういう事情もここに書かれておりますし、また、ハリス公使が多くの日本人と会うなかにおいて、市井の日本人に対する評価、市井の人々がどのようにハリス大使〔ママ〕の目に映っていたかということも書かれてひます。

日本人は、衣食足りて礼節を知る国民で、そしていつもニコニコしていたということが書かれています。もちろん、おそらくこの日記が日本人の目に触れることを予測してひますね（笑）、多分に外交辞令も含まれているんでしょうけれども、そのように、われわれもエマニュエル大使に接していきたいと、こう思っているというところでござひます。

おそらく、これからも、常に、日米間にはいろいろな課題が生まれます。しかしエマニュエル大使は、課題が困難であれば困難であるほど、ファイトを燃やす方だと、承知をしてひますので、エマニュエル大使とともにさまざまな課題に直面するでしょうけれども、それをしっかりと乗り越えながら、日米関係をさらに発展させていきたいと思ひます。改めまして、ようこそ日本にお越しをいただきました。ありがとうございました。